

Japonaise 突撃インタビュー

今月のお客さま
黒住友香さん

ショパンゆかりの地、ノアンでピアノコンサート

今年4月に開催された「ノアン・フェスティバル・ショパン・イン・ジャパン・ピアノコンクール」で一位入賞したピアニスト黒住友香さん。このコンクールは入賞者の中から音楽祭「ノアン・フェスティバル」や、関連する演奏会の出演権が選考されます。ショパンが、売れっ子作家だった恋人のジョルジュ・サンドと毎夏を過ごしたのがパリ近郊の街、ノアンです。今年はノアンの「ジョルジュ・サンドの館」でショパンの命日を偲ぶコンサートがあり、今回入賞者の中から選ばれた黒住さんが出演されます。



Sérénité Nocturne photo by Saori

もう一度夢に向かってチャレンジ

◆「ノアン・フェスティバル・ショパン・イン・ジャパン・ピアノコンクール」について教えてください。

私は京都芸大を経て東京藝大大学院ピアノ科に入り、現在は演奏活動と後進指導に力を注いでいます。幼い頃の夢は「ショパン国際ピアノコンクール」で優勝すること。でも、年齢を重ねるにつれて、ショパンの作品の偉大さに足がすくみ、自分の力不足を感じたり…、そんな言い訳をして、夢に挑戦すらしなかったんです。そこからずいぶん時間がたった昨年、ちょうどショパン作品に取り組んでいた時にこのコンクールを知りました。ノアン・フェスティバルは、2016年には50周年を迎え、超一流ピアニストが演奏してきた素晴らしい音楽祭。あの頃の夢に、形は違えど一度は正面から向き合いたいと思いましたし、ノアンで演奏するという夢みたいな経験をしたと強く思いました。

◆ノアンは、ショパンが恋人のジョルジュ・サンドと過ごした街、ということですが。

素朴な自然に囲まれた街という印象ですね。今年はショパン国際ピアノコンクールの年だし、このフェスティバルも街自体も盛り上がりつつあるんじゃないかな。ジョルジュ・サンドの館では、ショパンの名作が次々と生み出され、サンドとの幸せな日々・病気との闘い・サンドとの別離など…酸いも甘いも噛み分けたショパンの記憶が残る特別な場所だと思います。また、ショパン自身が親しい友人を招いて演奏していた場所でもあるので、演奏時のお客さまとの距離は近いと思います。

◆フランスは初めてですか？

はい！初めてなのでワクワクしています。ショパンを愛する現地の方々がコンサートにいらしてくれただけ嬉しいですね。パリに立ち寄れるのも楽しみです。ショパンは祖国ポーランドを離れた後は長くパリで活躍していたので、パリの空気を肌で感じたいです。そして彼に関連したロマン美術館や、新しいノートルダム大聖堂も見てみたいです。

◆フランス語の方はどうですか？

恥ずかしながら、全くこれまで触れることがなくて…。だから自己紹介ぐらいはできるようにしたいと思っています。英語しか話せないの、後はノリで行くしかないかな(笑)。

◆コンサートでは何の曲目を演奏されますか？

ショパンが生涯を通して日記のように書き残したマズルカからOp.30、ジョルジュ・サンドとの破局寸前に書かれたバルカローレ、そしてコンクールでも演奏したショパン円熟期の作品ソナタ第3番を演奏します。このプログラムを通して、作曲家ショパンとしてだけでなく一人の人間としてのショパンの心の機微を繊細に表現することを目指したいです。

技術よりも細やかな表現を評価するフランス人

◆ショパンは好きな作曲家ですか？

はい。ピアニストにとって、最も密接な関係にある作曲家は、やっぱりショパンかなと。ピアノという楽器を知り尽くしたショパンの自然なピアノ書法で書かれた作品は、ピアニストにとっては

本来母国語で話すような感覚で演奏ができるものだと思うからです。また、私自身この数年は、結婚・離婚など人生のアップダウンを経験して、ショパンの壮絶な人生には及ばずとも、彼の内面の光と影の部分に対してより具体的に思いを巡らせることができました。ですからここ最近では特にショパンに共感して、彼の作品に救われる経験ができたのはピアニストとして幸せでした。そういう意味でもすごく特別な作曲家でした。

◆日仏でのクラシック音楽の捉え方の違いは？

今回のコンクールの審査員長がフランス人で、審査員ではない他のフランス人も聴いていらして、彼らと後で少しお話ししました。日本はどちらかというと、演奏の技術やわかりやすいコントラストの表現が評価される傾向にあると思うんですが、フランスは技術より内面の細やかなひだの表現にフォーカスして聞いている印象を受けました。フランスのお客様の反応を、今度のコンサートで感じられるといいなと思っています。

◆これからどんな演奏をしていきたいですか？

ありのままの今の自分の演奏を聴いていただきたいなと思っています。私は技術には全く自信はないんです。コンクールでは私よりももっと完璧な演奏者は他にたくさんいらして、そこは自分に足りない部分なのですが、それよりも細やかな音色のニュアンスや表現を磨くことに情熱を燃やしたいと思っています。そして、これからの人生の様々な経験が音楽に加味されていく楽しみを味わってみたいです。

Instagram @tomokapianist

毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。
毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国

語り 冨田九穂子
番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

マダム愛の わたくし ミュラン

第141回

バー併設のレストランで サクッと美味しいお食事を

女 友達に、サクッとご飯に行こう〜！と誘われた時、二人揃って行きたいリストに載っていたのが「Le Comptoir des Fables」。パリの7区、エッフェル塔の近くにあるバー併設のレストラン。ここのメニューはバラエティーに富んでいて、誰が行っても気になるメニューが見つかります。居酒屋感覚で乾杯したかったので、まずは前菜から3つをチョイスしてシェアすることに。フォアグラにエビの春巻きに鯛のカルパッチョ。これがね、どれもハズレ無し！いや、むしろ期待以上に美味しい。個人的なようでバランスのとれた料理たちに居酒屋感覚だったのも忘れ、いつの間にか料理を堪能するのに集中してしまっただけ。フォアグラは臭みなく、ふんわり。エビの春巻きはサクサクぷりぷり、そしてカルパッチョは絶妙な酸味にパクチーのアクセントが完璧でした。メインにどうしても牛肉が食べたくなり、さらに豚も食べたいと盛り上がり注文したら、お店

の人に止められました。なぜ？と思ったけれどすぐに納得。やってきた牛肉さんのボリュームが凄すぎた！これは確かに2皿頼んでいる場合ではありません。しかも焼き加減が最高でソースもついていて、飽きずに完食。ごちそうさま。

バー併設なので、食べ終わった後はそちらに移動して二次会ができるのも最高でしたよ。店内もおしゃれで清潔感があり、気候が良い時は広々テラスも楽しめます。小腹がすいた時はもちろんがっつり食べたい時も覚えていて損はないレストランなのです。

- A. バー併設の店内はとてもおしゃれで居心地も良い。
- B. テーブルに並んだ前菜たち。どれも妥協のない美味しさでした。
- C. 料理に合うワインをお店の人がセレクト。
- D. ボリュームたっぷりの牛肉。火の入れ具合も完璧！これだけ食べにまた行きたい。ホクホクのジャガイモもしっかりとソテーされていて危険な美味しさ。
- E. パースペースに移動してカクテルで締められるのも良いよね。

今月のハート

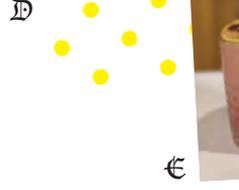
料理	♥♥♥♥♥
ドリンク	♥♥♥♥♥
サービス	♥♥♥♥♥
雰囲気	♥♥♥♥♥
コスパ	♥♥♥♥♥

— Le Comptoir des Fables —
 112 Rue Saint Dominique 75007 Paris
 ☎ 09 88 31 75 17
<https://comptoirdesfables.fr>

writer **マダム愛**
 東京で知り合った仏人男性に連れ去られ、気が付けばパリジェンヌとやりに。パリのレストランと生活、2つのブログを書いています。

blog **マダム愛の徒然パリ日記**
<http://www.paris777.blog.fc2.com/>

blog **マダム愛のアパートの鍵貸します**
<https://www.madameai.com/>



編集部おすすめ Petit Voyage

マルセイユ編 II

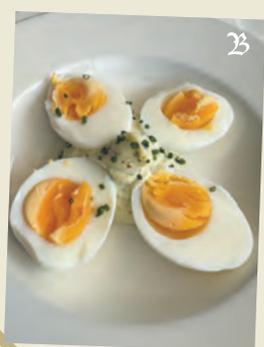
眺めの良いレストランから マルセイユ石鯨博物館へ

旧 友との再会は旧港を一望できるレストラン「La caravelle」。前菜のウフマヨネーズ、つまり、ゆで卵マヨネーズがこんなにおいしいなんていまだに信じられません。ニンニクマヨネーズ最強説。

マルセイユといえばかつて一世を風靡した、14世紀から王室御用達であるマルセイユ石鯨。マルセイユ石鯨と名乗るには厳しい基準をクリアしなければならず、アレルギー物質が少ないため赤ちゃんの衣服の洗浄によく使われています。調べてみるとフランス人は体から髪の毛、お皿洗いから歯まで磨く人もいますという。なんとという信頼。こちらのお店(石鯨博物館)は博物館

- La caravelle**
 34 Quai du Port, 13002 Marseille
- Le Musée du Savon (石鯨博物館)**
 25 Quai de Rive Neuve, 13007 Marseille

兼売店で、石鯨づくり体験もできます。この大きくてポコポコした感じ、素朴でかわいいいな〜。南仏はラベンダー特産地でもあるので、よい香りのマルセイユ石鯨もたくさん。お土産探しはここで完了です。ちなみにマルセイバターサンドはマルセイユとは関係ありませんでした〜！



- A. マルセイユの旧港の真正面にあるレストラン。
- B. ゆで卵にマヨネーズなんてレストランで出しているか。いいんです！
- C. 博物館はお客さんでいっぱい。
- D. 淡い色合いがなんともオシャレ。

とびこめ! ミュゼのとびら

今更聞けないフレンチアート

愛と創作の舞台ノアン ショパンと過ごした夏

パリから南へ約250km。ノアン (Nohant-Vic) というところに、19世紀フランスの女流作家、ジョルジュ・サンドが生涯愛した館があります。

ノアン城とも呼ばれ、現在は、在りし日のジョルジュの私生活が伺える博物館となっています。ジョルジュこと、本名アマンディーヌ＝オーロール＝リュシール・デュパンは1804年パリに生まれました。由緒正しい家系の出身で、父方には、神聖ローマ帝国の選帝侯でありポーランド王でもあったアウグスト2世、その息子がサンドの曾祖父にあたるモーリス・ド・サクスは、フランス王国軍の大元帥にまで昇りつめた人物です。

Domaine de George Sand ジョルジュ・サンドの館 Nohant Vic

この館は、18世紀の終わり、モーリスの娘つまりジョルジュの祖母にあたるマリー＝オーロール・ド・サクスの代に購入されました。ジョルジュは幼少期、祖母にここで育てられ、のちのジョルジュの人生や、その恋人ショパンにとっても、大切な場所となっています。

前期ロマン派音楽を代表する作曲家でピアニストであるフレデリック・ショパンとは、友人のピアニスト、フランツ・リストを通じて出会います。リストに、ショパンに引き合わせて欲しいとお願いするのです。恋人になった二人は、夏は一緒にこの館で過ごし、二人にとって創作の場所となりました。ここで生まれた名曲も数多くあります。

現在では毎年夏に、二人を偲ぶ音楽祭、ノアンフェスティバル (Nohant Festival Chopin) も行われています。ぜひ訪れてみたいですね。



writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史 & 日本史ヲブ。日仏の文学からアートまで深掘りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/m/md750819c9bc7>



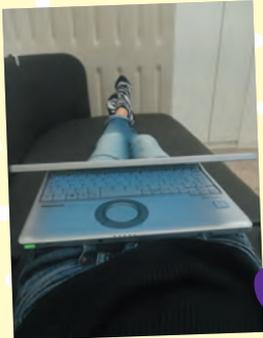
仏人添乗員リラの

日本リラ散歩



ついにフルタイム

現 在勤めている会社では数年前から週4日で勤務しているけど、10月からは30代にして初めて同じ会社でフルタイムで勤務する



リラックスモード
でのお仕事

ことになった。フルタイムと言っても、正社員ではなく、今までと変わらず短期間のアルバイト契約をずっと更新している状況なので、安定した立場とは言えない。ただ、少なくともうちの会社ではアルバイト契約を更新できる期間は最長で4年間との決まりがあり、その期限が迫っている。更新の上限に達した場合、業務委託で新たに契約を結ぶか、社内の制度を利用して契約社員に応募できるけど、直接正社員にはなれず、安定した立場への道のりはまだまだ長い。

フランスでの社会人経験がほとんどないので契約の種類やその周りの法律に詳しくないが、フランスではもっと厳しく規制されているようだ。フランスでもざっくり分けると無期雇用と有期雇用の契約があり、無期雇用は基本の契約形態とし、有期雇用の契約には様々な細かい決まりがあったり、特定の状況でしか利用できなかったりする。業界特有のルールや例外があるけど、一般的には一時的な企業活動の増大、休暇中の社員の代わり、季節限定の仕事などの場

合に用いられている。逆に言うと、通常かつ継続的な企業活動のために有期雇用を用いることができない。現在の私の状況のように、同じ企業で継続的な仕事のために短期間の契約を何回も更新して何年間も有期雇用のまま働くというのは、基本的にはできないようだ。

日本ではこれまでにインターン、フリーランス、派遣社員、アルバイトを経験してきたが、いつか正社員になる日が来るのでしょうか。とりあえず、週5勤務を経験してからまた考えることにしよう。



writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とベランダの植物の世話。

トモクンの

アレコレ、パジャコレ、ナンジャコレ〜

フランスの方が有名?

『UFOロボ グレンダイザー』に見る 日本との人気の違い

あ る夏の日、地下鉄シャトレ駅にて乗り換えている時のこと。思わず目を疑ってしまいました。パリの中でも中心の駅の通路全面が、日本の『グレンダイザー』一色だったのです。フランスでは、1978年に『Goldorak (ゴルドラック)』として放送され、視聴率は平均75%、最高は100%を記録。ただし、これは放送局が少なかった時代であり、世代別の中でも子どもについての視聴率、という独特の集計方法によるもの。とにかく、「子どもは全員見ていた」くらいの熱狂的な人気を博したのです。

『グレンダイザー』は日本でも高い視聴率を誇りましたが、フランスのように後年にも根強い支持を集め続けることもなかったはず。それは、

日本では他にもたくさんのアニメ番組や戦隊モノが存在し、選択肢の幅が広がったことも大きいでしょう。

命尽きるまで応援する「推し文化」の根強い日本ですが、フランスも負けてはいません。日本並み、それ以上にオタクの多いフランスでは、未だに人気不衰。2019年には作者の永井豪氏が芸術文化勲章である「シュヴァリエ」が贈られ、2021年には日本文化会館で展覧会が催され、同年には記念切手も発売されたほど。そして、今年には『グレンダイザー』50周年で、シャトレでの展示はそれを記念したものでした。一般家庭が参加する街中の古物市では、たまにグレンダイザーのフィギュアに出くわすことがあるけれど、日本との温度差を感じます。

フランスでは『美少女戦士セーラームーン』も未だに人気。ただ、『ドラえもん』よりも『パーマン』、『銀河鉄道999』よりも『キャプテンハーロック』が好まれているのは、国民的な趣味嗜好の違いがあるのかもしれませんが。永井豪作品も、『キューティーハニー』や『デビルマン』の方が日本



では有名な印象。なぜその差異が生じるのかは良く判らず。そんなところに、フランス人の独自性を感じるのでした〜。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト(業歴17年)は仮の姿で、本当はただの廃品回収業(業歴5年)。詳しくはブログ『友くんのパリ蚤の市散歩』にて。

blog 友くんのパリ蚤の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>





第19回

アメリカ・アンティークの首都
アダムスタウンへ爆買いの旅

週末はアンティークのお店が大集合している、ペンシルベニア州の街、「アンティークキャピタル」と名乗っている街へ行ってきました。アンティーク好きにはたまらない街ですが電車では非常に行きづらい。そこで車で以前ワイナリー巡りをお願いしたドライバーさんに運転をお願いし、買い物好きなお友達を4人集めてちょっとしたミニツアーを開催することになりました。

かなり行きたかったのに一年行かなかった理由はただ一つ。車にトイレがないからです。お腹ヨワヨワあいちゃん、最近面の皮が厚くなってきたけれどさすがにドライバーさんとお友達がいるのに漏らせない。「止めてください！」って言うのも申し訳ない。赤ちゃんならまだしも、44歳。絶対に車内で腹痛を起こさないプロジェクトを立ち上げ、日本滞在中に大腸に詳しい消化器内科を予約。初対面のお医者さんにこれまでの異常な腹の弱さを滔々と訴えたところ優しくしてもらえた上、4種類の薬をゲット。毎日飲んでおく薬と漢方、当日の朝飲む薬、痛くなった時に飲む薬の4つ。ああ、私これのために日本に来たのかも……うれしい……。最後にダメ押し。ドライバーさんに「腹が弱く、万が一の事態があったらすみません」と突然の告白である。そんな危険な客を乗せたくないだろうに、ドライバーさんから「高速に入れば20分おきにパーキングがあります」と優しい返事に涙が！

ブタの小物入れ、3ドル。掘り出し物！と買った後に産地シール発見。▼



▲フランスの蚤の市とは雰囲気が大違いだが、これもまたよし。

1週間前からもらった薬を飲み続け、当日は2時間前から起きてトイレに座り続け、当日の薬もしっかり飲んでいざ出発。ニューヨークを出発して3時間、なんと一度もトイレに止まらず到着～!!

まずは屋外の蚤の市へ。多分雨の日も風の日もこのまま商品を放置している。掘り出し物なんだろうけど、埃がスゴすぎる。それが30店舗はある。これは相当な目利きか、ほしいものがきっちり決まっていなくて、ネバーエンディングストーリーであります。ジャンルも幅広く、シカの2頭が転がっていたり、ハロウィン向けの雑誌、アメコミの等身大看板、どでかいライオンTシャツとサングラスかけたラクダぬいぐるみ、店主のキッチュなセンスに圧倒され手も足も出ない。

車で10分くらいの範囲にアンティークショップモールが集合していて、5軒くらいハシゴしました。屋内だと全部ステキに見えるから不思議です。

みんな最初「多すぎて迷っちゃう～」など言っていたのが、徐々に興奮しだして、無言に。モールの中で散らばり、最終的には「目が痛い」買い物に集中しすぎると目にくるらしい。とにかくニューヨーク市内よりもなにかも安いし幸福度が高い。

私はお腹のことばかり考えていて、下調べを完全に忘れ自らのインスピレーションを信じるしかない。これでも代官山のセレクトショップで働いたこともありますしフランス展でパリ蚤の市商品を販売した経験もあるしきつと目利きなはず。自信満々で買った後、裏を見てみると「made in china」。日本からはるばるニューヨークにやってきて、さらに3時間かけて手に入れたメイドインチャイナであった。代官山の目利きの看板、速攻下ろして破壊済みです。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022年で設立10周年。2024年春よりNY在住。

HP <https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

編集後記

年中真夏のホーチンシティ。テレビで秋の様子が映るだけで秋が恋しくなっています。パリの秋も素敵だろうなあ。今月の巻頭フォトのキャプションの意味は、「夜の平和」。秋の夜長を楽しみたいものですな！（編集Y）

編集後記

暑く長い夏がようやく終わりますね。日本では稲田が金色に輝き始めていますが、フランスでは葡萄畑が黄金色に染まるとか。パリ市内のモンマルトルにもぶどう畑があり、10月には収穫祭があるそうです。黄金の畑、見てみたい！（AD. F）

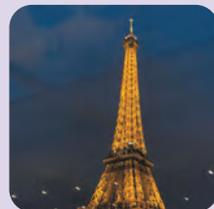
パリに暮らす猫パリにゃん・リリちゃんとゴキゲン指揮者キョーリのほのぼの生活

パリにゃん通信



ディナー付きセーヌ川クルージング!

毎年、年度末に合唱団の皆さんから素敵なプレゼントを頂くのですが、今回は何とディナー付きセーヌ川クルージング！パリに住んでいても（いるからこそ？）乗る機会はないので、私の誕生日にいそいそとお出かけ。船の出発は日没に合わせて19時。当日はお天気も最高で、シャンパンを飲みながらパリの街並みが夕焼けに染まり、エッフェル塔が段々と夜空に輝いていく様を見る事ができました。テーブルは全て窓向きで、二人席でも並んで座ります。ちなみにお客さんは100%観光客。ロマンチックなディナーと言うよりは、ほぼ全員が携帯でセーヌ川越しのパリを撮りまくっていました(笑)。私も普段とは違う角度からパリの街並みを見て、その美しさに改めて感動。素敵な誕生日ディナーになりました！



writer 押田杏里

日仏混合アマチュア合唱団「バリア・ブリコ合唱団」を主宰する指揮者。パリで猫のリリちゃんと旦那様と「今を生きる」をモットーに暮らしています。

Instagram @abricotp

本当に話せる力を
ここで



フランス語会話学校
エコールサンパ

03-3337-7933 / info@ecolesympa.com

表参道・阿佐ヶ谷・自由ヶ丘・オンライン

スマホも大画面テレビもアプリをダウンロードするだけ
フランスで日本のテレビ

BS 50ch
1週間無料体験
アプリをダウンロードして簡単登録で即時視聴

- 地上・BS・CS50局ライブTV
- 過去4週間番組の見直し視聴
- 週間ランキングVOD500本
- 過去4週間番組の予約録画可
- スマホからテレビ画面に転送可
- TV端末契約でスマホ視聴無料

年間契約 TVDongle 無料

モバイル USD 199.9/年 | テレビ+モバイル USD 239.9/年 | 月あたり USD 16.6
サポートメール [日本人受付] admin@kaitekitv.com | サポートページ <https://kaitekitv-support.com>